

令和5年度 静岡県立三島南高等学校 学校自己評価

「評価」 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

敬称略

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署	評価	達成状況	成果と課題	関係者評価	意見
ア	基本的な生活習慣を身につけ、常に自覚ある行動ができる生徒を育成する。	生徒スローガン『われらの自覚～三南P r i d e～』の推進 代議委員会と職員による登校指導の実施 初期指導（挨拶・身だしなみ）の徹底 生徒自ら考える交通安全教育の推進	①「正しい身だしなみ」、「自ら進んで挨拶できる」生徒 90%以上  ②重大な交通事故 ゼロ 生命を考える教育 年1回実施	生徒課	①A  ②A	①身だしなみ：97.6% 挨拶：96.3%  ②0件 命のメッセージ展、交通安全委員による交通安全運動を実施	①②身だしなみ、挨拶、交通事故防止、自転車の乗車マナーの交通指導を継続していく。	①A  ②A	①挨拶、身だしなみは基本であり、自ら進んでできることは良いことである。 ①生徒は、身だしなみがきちんとしており、横断歩道を渡る際には頭を下げて挨拶をする。 ①登下校の生徒の服装及び交通マナーについて、特に気になる行動は見られず、よく守られていると感じる。 ②重大事故が0件ということは素晴らしい。
		自主的な校内美化活動の推進 美化委員会の活性化	①「美化活動に積極的に取り組む」生徒 80%以上	保健環境課	①A	①93.5%	①各分担場所の清掃点検を加えながら、常に校内美化に努めるよう指導していく。特にトイレの清掃を徹底していく。	①A	①学校運営協議会や学校行事に訪問の際にも校舎内外がきれいに整備されているように感じる。 ①トイレを清潔に保つことは気持ちが良いことである。
イ	学習に対して主体的に取り組む、学びを深めようとする生徒を育成する。	「観点別評価の実施と点検・改善」 思考力・判断力・表現力をつける授業の推進 効果的なICT活用研修による授業改善 家庭学習の充実	①「授業に集中して取り組む」生徒 90%以上 ②「教材や教え方に工夫があり、授業内容が充実」と回答する生徒 80%以上 ③「家庭学習をよくしている」生徒 50%以上	教務課 教科 学年	①A  ②A  ③B	①94.3%  ②89.4%  ③48.1%	①②③各教科の週課題等を活用することで、家庭学習(自主的な学習)の時間の確保に向けた取組を継続していく。	①A  ②A  ③A	①落ち着いた授業が実践されており、今後も学校経営目標に基づいた、個々の生徒が自ら課題をもち、主体的に解決する力を育てる授業力向上に努めてほしい。 ①授業に集中することは一番の勉強方法である。 ③ほぼ達成できている様であるが、今後目標達成のために改善を進めてもらいたい。
		進路視点に立った科目選択説明会の実施 校外学修活動（高大連携学習）の推進	①「興味、関心、適性、進路に合った文理選択、科目選択ができた」生徒 80%以上	教務課	①A	①91.6%	次年度は新課程の完成年度であるため、実情に合わせて教育課程の見直しをしていく。	①A	①受験校を決定する際、本校での履修科目が受験科目に合わず進路変更した生徒がいたようだ。 ①早期に将来の進路を定め、目標に向かってやり抜いて欲しい。
		読書活動の推進（読書週間の充実、図書館だより発行、図書館活用促進）	①「年間6冊以上本を読んだ」生徒 30%以上	図書探究課	①A	①31.6%	朝読書試行を2回行い、様々な企画も工夫した。次年度は年間5回朝読書週間を設定していく。	①A	①目標は達成できている。高校時代には、できるだけ多くの本を読んでもらいたい。 ①日常的に生徒が活用しやすい図書館経営や雰囲気作りを工夫してほしい。 ①読書サークルのようなものができるとうい。
		各種検定への自発的受検の推進・上位級合格（簿記、情報処理、英語検定等）	①受検者数・合格率 前年度以上	英語科 商業科	①A	①英語検定合格者 準2級14名 2級11名 英検講座参加者41名（昨年並）  情報処理検定合格者 1級6名 2級8名 準2級16名 3級3名 合格率94%（受検35名）	英検講座参加者は例年並みであったが、1・2年次生で英検に挑戦する生徒が増加した。情報処理検定1級へ挑戦する生徒と合格者が増加し、1級・2級合格率は100%であった。また、新教育課程への移行により、2年次での情報処理の授業がなくなるが、3年次での授業を活用して受験を促していく。	①A	①資格検定試験についての生徒への情報提供を行い、進路指導の一環として生徒が資格取得に向けた意識が向上する工夫をしてほしい。 ①各種検定試験に積極的に挑戦して欲しい。
ウ	自らの進路や生き方について深く考え、それを実現するための基礎的能力、学力を有	進路情報の積極的な発信（講演会、進路行事、進路の手引き、HP等） 講習、個別面談指導の充実	①「進路説明会、ガイダンス、行事が充実している」と回答する生徒 80%以上 ②「進路情報、進路相談が充実している」と回答する生徒 80%以上	進路課	①A  ②A	①90.7%  ②89.0%	生徒だけでなく保護者も参加できる進路講演会を実施する。	①A  ②A	①②一段上の進路目標を持って欲しい。 ①②豊富な情報提供、及び個々の生徒に思いに寄り添った丁寧な進路相談など、生徒が自信をもって進路決定ができる支援をお願いしたい。 ②大学のホームページでは得られなかった情報を学校側から得られ、助かった生徒がいた。

	する生徒を育成する。	キャリア教育の充実（大学訪問、大学研究、職業研究等） 職員の進路指導力の向上（ICTの活用・研究、研修会等）	①「自覚探究の活動に興味・関心を持って取り組んでいる」生徒80%以上	図書探究課 進路課	①A ①82.3%	進路につながる取組を意識し、生徒に探究的な力がつくように、自覚探究のプログラムを改善していく。	①A	①大学訪問は進路決定の参考になる。
		1・2学年次からの個に応じた学習支援 進路意欲の更なる向上（講演等） 特進プレ講座の実施	①「学習・進路支援に満足している」生徒80%以上 ②「進学講座・講演の内容に満足している」生徒80%以上	進路課	①A ②A ①89.4% ②90.7%	①実態に合わせた内容を検討する。 ②3年間を見据えた講演会を計画的に実施する。	①A ②A	
エ	特別活動や部活動を通して、心身ともに健康で人間性・社会性が豊かな生徒を育成する。	生徒会活動、委員会活動の活性化	①「生徒会活動・委員会活動は活発である」と回答する生徒80%以上 ②「学校行事は充実している」と回答する生徒80%以上	生徒課	①B ②A ①64.4% ②90.7%	委員会活動や行事での達成感・充実感を高められるように、生徒主体の活動を推進する。	①B ②A	①生徒が主体的に考え、活動し充実感を高められるようにしてもらいたい。 ②生徒自身で考えて行動して欲しい。
		部活動の充実 部活動指導員、外部指導者の活用推進	①県大会に出場する部活動75%以上 ②「部活動に充実感を得ている」生徒85%以上 ③「部活動指導員、外部指導者の指導は役立つ」と回答する教員90%以上	生徒課	①A ②A ③A ①100%(運動部12、文化部4) ②89.0% ③89.2%	①今年度より上位の成績を目指して、継続的に指導を行っていく。 ②大会成績だけでなく、部活動を通じて自己肯定感を高めていく。 ③顧問と部活動指導員・外部指導者で連携して指導を行うことができた。今後も継続したい。	①A ②A ③A	①②③文武両道の精神や人との関わり方を学ぶ部活動を積極的に推進してほしい。反面、指導する教師の負担増にならないような時間や仕組み、配慮が必要である。 ①②部活動を継続することは大切であり、その活躍は学校の活性化につながる。 ③外部指導者の活用は有効的である。(3人)
オ	芸術に関する授業や行事等を通して感性を培い、表現力豊かな生徒を育成する。	芸術科教科発表会・展示会の充実	①昼休み授業発表の実施 3回以上	芸術科	①A ②A ①7回 ②約150名	生徒一人ひとりの個性を引き出すことができたため、今後も継続的に実施していく。	①A ②A	
		2月芸術発表会の広報活動の拡大	②発表会・展示会の観客動員数向上					
		芸術鑑賞教室の実施	①「芸術鑑賞教室の内容に満足している」生徒80%以上	図書探究課	①A ①86.2%	費用面・日程面等の観点から、今後の在り方を検討していく。	①A	
カ	グローバル・グローバルな視点で考え行動し、社会で活躍できる生徒を育成する。	海外研修及び姉妹校提携の推進	①「海外研修に関心ある」生徒60%以上 ②「国際交流に積極的に参加したい」生徒60%以上	国際交流委員会	①B ②B ①42.5% ②41.2%	海外研修・国際交流に参加した生徒にフィードバックをしてもらい、関心のある生徒を増やしていく。	①B ②B	①海外研修は費用等の問題もあるが、関心は持っていたきたい。 ①国内でも様々な経験ができるが、国際的な感覚をぜひ身につけてもらいたい。 ②国際交流を増やすための方策を検討したい。 ①②コロナ禍であったため、行動制限が多く、思うような活動が進まなかったかと思われるが、今後の積極的な取り組みを期待する。 ①②これまでコロナ禍で渡航は難しかったと思うが、来年度以降直接触れ合う機会の実現を願う。
		「一部活動一地域貢献活動」の推進	①地域と交流・連携した部活動90%以上	生徒課	①B ①65.0%	地域交流・連携の事例を研究し、できることから取り組むように努める。	①B	①地域交流を深めていただくため、地元のイベント等に積極的に参加して欲しい。 ①地域との繋がり大切であるので、ぜひ改善を進めて頂きたい。 ①部活動運営が難しくなっていると聞いており、成果目標を下げる等の検討したらどうか。 ①部活動単位での地域交流については、時折マスコミにも取り上げられており、地域に開かれた学校づくりの意味でも継続的な活動が必要である。
		積極的な情報発信（HP、学校紹介ビデオ等）	①HP更新の推進 年300回以上 ②各部活動ページ年間3回以上更新	研修情報課 分掌・学年部活動	①A ②B ①年600回以上 ②概ね年3回以上更新	三南トピックスを中心に学校ホームページで学校行事、授業風景、部活動など多くの情報を発信していく。	①A ②A	①②担当はたいへんだと思うが、継続的な発信をお願いしたい。 ①学校紹介動画は本校の魅力が伝わるものでとてもよかった。 ②更新の少ない部活動もある。

キ	学校運営協議会を通して地域連携を深め、地域課題の解決を目指す教育活動を行う。	学校運営協議会（コミュニティー・スクール）の活用  地域課題の発見、その解決に向けた取組（サービ斯拉ーニングの視点）  P T A総会・H R懇談会への保護者参加率向上	①学校運営協議会 年4回実施、活用  ②「地域課題と関連した取組を行った」学年 全学年  ③P T A総会の参加率 前年度以上	副校長  図書探究課 学年・教科  総務課	①A  ②A  ③A	①年間4回実施  ②企業訪問（1年次）、文化祭模擬店の実施（2・3年次）、各教科による連携 ③19.3%（昨年は書面決議だったため、単純比較はできないが、事前申込の数より多くの保護者の来校があった。）	①学校改善に向けて、各回で有益な情報交換・協議が行われた。引き続き、有益な情報交換をしていく。  ②各教科の授業や探究的活動の中で地域連携を行った。今後も連携を深めていく。  ③次年度以降の総会の形態を本部役員と協議する。	①A  ②A  ③A	①学校運営協議会に保護者代表が加わり、以前よりさらに生徒、保護者の声が聴けるようになったことはよいことだと感じる。会議内容や取組みがさらに多くの人にひろく啓発されていくことを願う。 ①教職員の熱心な指導や取組を深く知ることができる機会となり感謝している。
ク	生徒の健康管理意識の向上 保健委員会の活性化		①「保健だより」 月1回発行  ②検診治療率の向上 前年度以上 ③朝食摂取率 100%	保健環境課	①A ②A ③A	①月1回発行  ②100% ③92.9%	①工夫した内容で発行し、啓発活動に役立てられた。 ②引き続き、受診指導を行う。 ③家庭環境が複雑化しており、朝食の重要性を継続して指導する。	①A ②A ③A	
	生徒の健康・安全を第一に考え、安心・安全な学校づくりを徹底する。	健康観察の徹底と不安や悩みを抱えた生徒の支援（いじめや悩みの早期発見・早期対応、スクールカウンセラーとの連携による深い生徒理解）	①「悩みに応じてくれる先生がいる」生徒 80%以上 ②生活アンケート実施 年2回以上	保健環境課 学年	①A ②A	①81.3% ②年2回	①情報共有を通じ、組織的に対応している。  ②アンケート結果を無駄にせず、迅速な対応を行う。	①A ②A	①生徒一人ひとりへの相談対応をお願いしたい。 ①②個々の生徒が悩みや困り感を1人で抱えることがないようにいつでも相談できる体制や教師の意識を構築してほしい。いじめ、問題行動の初期段階での気づきを大切にしたい。
	生徒の防災意識の向上（防災及び緊急時マニュアルの周知徹底、防災訓練 年3回、A E D実習の実施）		①地域防災への参加率 50%以上 ②防災意識の向上 70%以上	総務課	①D ②C	①3% ②83%、防災訓練2回実施	学校全体として能登半島地震の被害状況を踏まえて、防災意識を高めていく必要がある。	①C ②B	①達成率が低い原因はどこにあるのか探る必要がある。 ②常に地震発生の可能性のある状況であるので、防災意識を高め知識を身に付けて欲しい。
ケ	教職員自ら資質・能力に取り組みとともに、学校組織の活性化を図る。	授業力の向上（授業参観、校内研修） 探究的活動の指導力とI C T活用力の向上 人権、危機管理に関する研修（校内研修 ※不祥事根絶研修を含む）	①相互授業参観期間 年2回 ②「主体的・対話的で深い学び等工夫した授業を実践している」教員100% ③「授業内で探究的活動を実践している」教員100% ④「I C T活用力の向上に取り組んでいる」教員100%	研修情報課  教頭	①A ②A ③A ④B	①年2回 ②94.4% ③94.4% ④74.3%	相互授業参観、校内研修を通じて資質、能力の向上、組織の活性化に努めている。 次年度は全学年で一人一台端末が完備するため、授業等での効果的な活用について引き続き研究していく。	①A ②A ③A ④B	①②③④ 学校経営の根幹である授業づくりには、日常的な個々の教師の自己研鑽と課題解決のための校内研修の充実が必要と考える。教師間での相互授業参観を積極的に実践し、教師間で気軽に授業について話題とできる雰囲気づくりを心掛けたい。 ③I C T活用の向上に向けて取り組んで欲しい。
		相互協力体制での業務実施と情報共有	①「風通しの良い職場環境」と回答する職員80%以上	管理職 分掌 学年	①B	①78.4%	職員間で相互協力体制が取れた。引き続き学校運営に関する意見や生徒情報を密に交換していく。	①A	①教育現場における情報共有は大切である。 ①教師が悩みを1人で抱え込まないような温かな人間関係づくりを心掛けたい。管理職のこまめな声かけもお願いしたい。
コ	教職員の多忙解消のため、業務改善を推進しつつ、事務を適正かつ効率的に執行する。	「やめる・減らす・見直す」学校全体の取組 定時退勤日、最終退勤時間の設定等 各教科、学年、分掌における取組 「一人一改革」の視点で業務改善部活動の取組 ガイドラインによる適正な運営	①定時退勤日、最終退勤時間の設定  ②各教科、学年、分掌における「業務改善のための取組」1件以上  ③部活動休養日の計画的な設定	管理職  教科 学年 分掌 部活動	①A ②B ③A	①毎週水曜日を定時退勤日とした。 ②10教科・3学年・7分掌から13件 ③100%	①定時退勤日の提示と呼びかけを行った。最終退勤時間の周知・徹底の意識づけを行った。 ②継続して持続可能な業務運営の改善に努めていく。  ③部活動ガイドラインの見直しも含め、適正な部活動運営を行っていく。	①A ②B ③A	①②③ 教職員の不祥事が他校で起こっている。明日は我が身であるという危機感を常に持っていただきたい。お互いが業務も含め、助けあい、仕事を効率化し、問題を共有化しながら学校全体の一体感を高め、自校の教職員の一人、チーム学校というプライドを高めていきたい。 ①②③ 学校教職員の過重労働を問題視する報道をよく目にしており、多忙化が解消されるよう適切な業務改善をお願いしたい。
		『学校の顔』として、さわやかで的確な接遇 安心・安全の確保と、より良い教育環境の整備	①対応クレーム件数 ゼロ  ②「施設が整備されている」と回答する生徒80%以上	事務部	①A ②A	①0件 ②92.1%	①分かり易く丁寧な対応を心掛けて、継続していく。 ②修繕を速やかに対応し、教育環境の維持に努めていく。	①A ②A	①クレーム件数がゼロであることは素晴らしいことである。